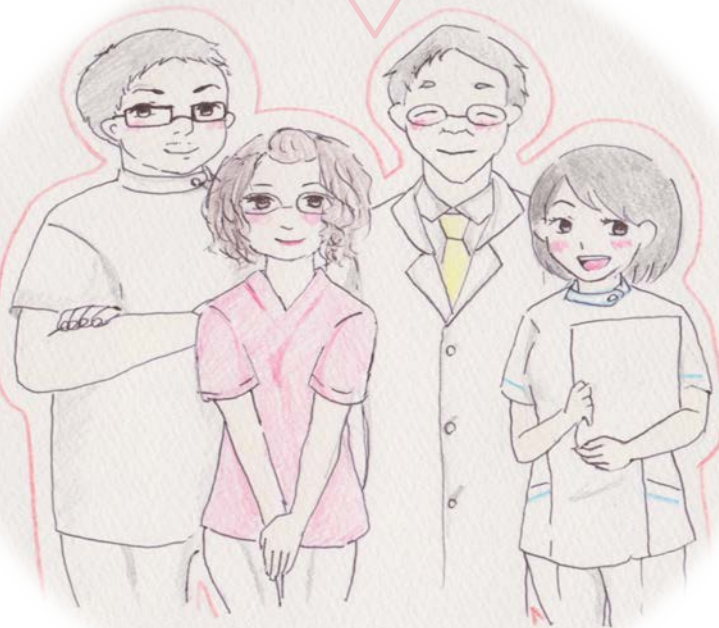


# 卵巣がんと診断された 患者さんへ

このパンフレットは遺伝性乳がん・卵巣がん  
症候群の理解を深めるためにご活用ください



近畿大学医学部附属病院  
産婦人科

Ver.1

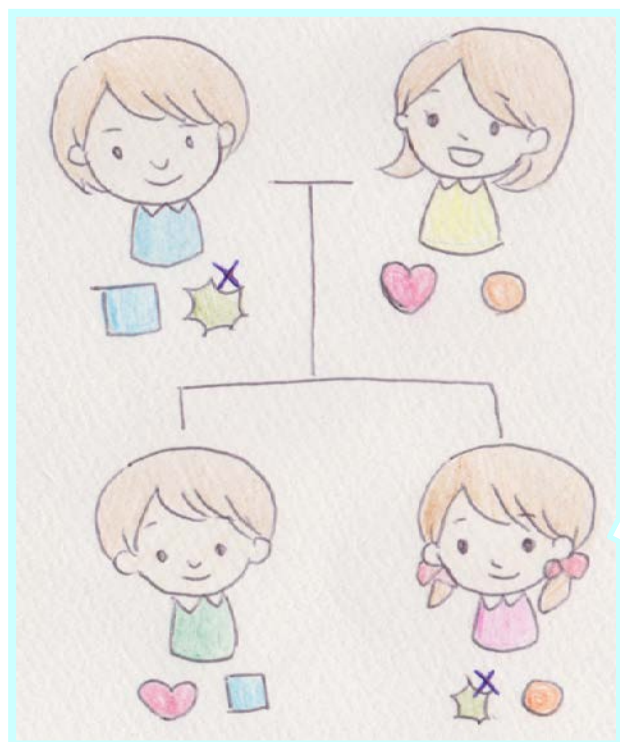
## 卵巣がんは、10人に1人が遺伝性に発症することをご存じですか？

- 遺伝性の卵巣がんの代表的なものに、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群と呼ばれる疾患があります。
- 生まれ持った遺伝子の異常(変異)があると卵巣がんになりやすくなります。あなたがその変異を有していると、その変異は血縁者間で共有されることがあり、その場合ご家族の方が卵巣がんや乳がんを発症する可能性があることを意味します。
  - ……→[遺伝性乳がん・卵巣がん症候群とは](#) P2へ
  - ……→[みんながんを発症するの](#) P4へ
- あなた自身やご家族の病気について詳しく教えていただくことにより、あなた自身やご家族が遺伝的にがんになりやすいかどうかについての情報を提供できることがあります。
  - ……→[遺伝性乳がん・卵巣がんの特徴](#) P3へ
  - ……→[どうやって診断できるの？](#) P5へ
- ご本人にとっては卵巣がん以外にも発症する可能性のあるがん、ご家族にとっては卵巣がん・乳がんを含めた発症する可能性のあるがんについてのリスクを予測し、適切な検診を受けるなどの対策を行うことで、がんの早期発見・早期治療、または予防が可能になる場合があります。
  - ……→[何か出来ることがあるの？](#) P6へ
- ご希望の患者さんには遺伝子診療部でより詳しい情報を提供することが可能ですのでお申し出ください。



## 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群とは

- BRCA1遺伝子、BRCA2遺伝子という遺伝子があります。この2つの遺伝子は男女関係なく誰でも持っていますが、このどちらかに生まれつき変異があると乳がんや卵巣がんになりやすいことがわかっています。
- BRCA1またはBRCA2に病的変異が見つかった場合に遺伝性乳がん・卵巣がん症候群と診断されます。
- 遺伝子変異は、性別に関係なく50%の確率で子供に受け継がれます。



## 遺伝性乳がん ・ 卵巣がん症候群の特徴

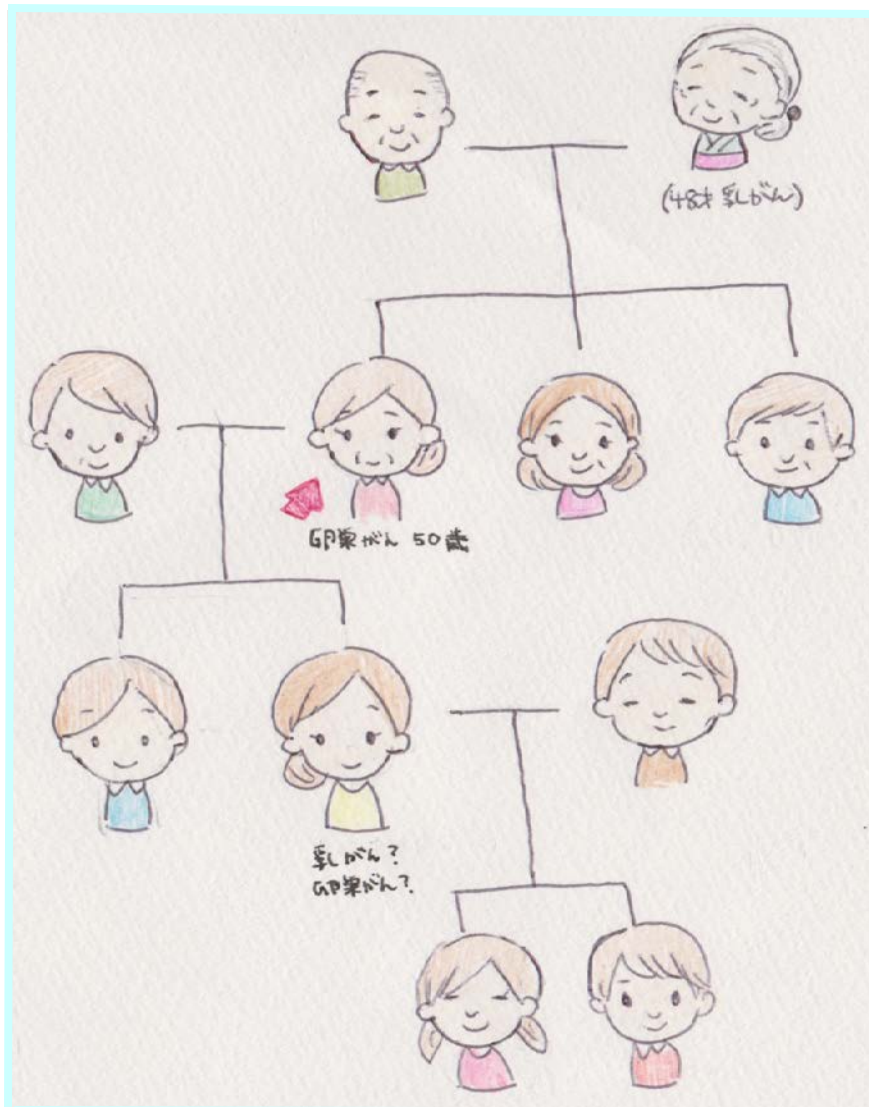
- 若年で乳がんを発症する
- トリプルネガティブ(エストロゲン受容体、プロゲステロン受容体を持っていないくて、HER2発現がないタイプ)の乳がんを発症する
- 両方の乳房にがんを発症する
- 片方の乳房に複数回乳がんを発症する
- 乳がんと卵巣がんの両方を発症する
- 男性で乳がんを発症する
- 家系内にすい臓がんや前立腺がんになった人が複数いる
- 家系内に乳がんや卵巣がんになった人がいる





## 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群と診断されたらみんながんと発症するの？

- BRCA1/2遺伝子の病的変異を持っていても必ずがんと発症するわけではありません。
- 遺伝子変異をもつ女性の生涯発症リスクは、乳癌で41～90%、卵巣がんが8～62%と報告されています。
- 前立腺がんやすい臓がんの発症が増加する報告もあります。



## どうやって診断できるの？

- 血液検査によって、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群の原因となるBRCA1/2遺伝子に変異があるかどうか調べることができます。
- 遺伝子の変異があれば、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群と診断されます。
- ただし、遺伝子変異が見つかった場合でも、実際にがんを発症するかどうかや発症時期を予測することはできません。
- また、今の技術では見つけることができない変化がある場合や、病的変異かどうか判断できない変異が見つかる場合もあります。
- BRCA1/2遺伝子検査は自費診療で行われます。





## 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群と診断されたら何かできることがあるの？

- 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群と診断された方には、現在のところ、世界の主要ながんセンターの同盟団体であるNCCNが提案しているガイドラインに基づいた継続的な検診や予防手段が推奨されます。
- 治療の選択にも関わることもあり、乳がんの場合、温存術が可能であっても、乳房切除術が選択肢として提示されることがあります。また、卵巣がんにおいても、将来的に薬剤の選択にも関わってくる可能性があります。
- ささまざまな背景を考慮した上で、リスク低減のための予防的な卵巣・卵管切除の選択肢が提示されることもあります。
- 遺伝子の情報は血縁者で共有することがあるので、ご家族で乳がんや卵巣がんを発症していない方も、同じ変異を持っている可能性があります。
- ご本人の検査によって、病的変異が見つかった場合には、まだ発症していないご家族（血縁者）が、同様の検査を受けることによって、同じ変異をもっているかどうか調べることができます。  
将来的なリスクがわかることで積極的にがん検診をうけることにより早期発見・早期治療に役立てることが可能と考えます。

## 遺伝子検査を受ける前に 考えて頂きたいこと

- 遺伝情報は、血縁者で共有されるものです。
- 結果は、ご本人のみではなく、ご家族やご親せきとも共有されるべきものかもしれません。
- もしかしたら、ご家族やご親せきの方にとっては知りたくない情報かもしれません。
- 検査を受けてわかること、わからないこと、検査結果にどう対応するか、周りの方にもどのような影響が生じる可能性があるかなど、よく考えた上であなたがご自身で検査を受けるかどうかを決めることが、結果を受け止めるためには必要です。
- 詳しい情報をお聞きになりたい場合は、担当医にご相談ください。検査を受けるかどうかも含めて、遺伝子診療部で相談が可能です。

